

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.1 2013年1月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

パナソニック システムソリューションズ ジャパンとパナソニック システムネットワークス、HD コムを搭載した可搬型のテレビ会議システムを発売



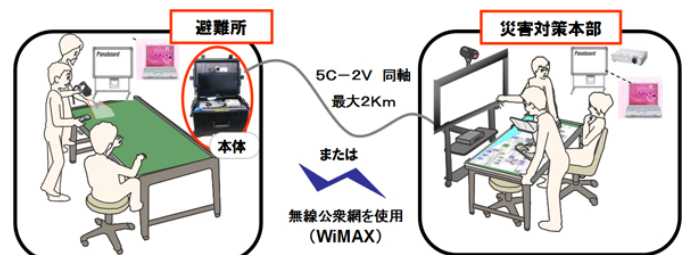
※大きさの比率は異なります。

可搬型コミュニケーションパッケージシステム（イメージ）
（パナソニック システムソリューションズ ジャパン資料）

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社（東京都中央区）は、「可搬型コミュニケーションパッケージシステム」を2012年12月より発売開始と発表。（2012年12月14日）

可搬型コミュニケーションパッケージシステムは、パナソニック システムネットワークス株式会社製フルHD対応テレビ会議システム「HD 映像コミュニケーションユニット（KX-VC600）」を、防水性と防塵性（JIS規格：IP66相当）に優れたハードケース（ペリカン・ストームケース）に収納し、野外に持ち出すことができるようにしたシステム。

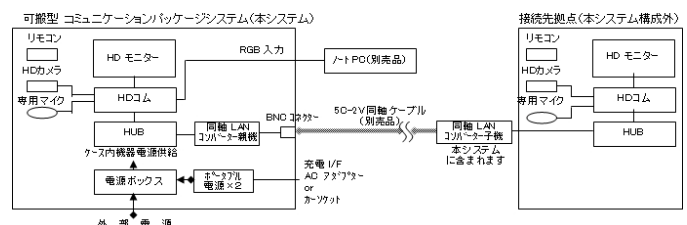
遠隔地間の資料共有をともなうテレビ会議用途はもとより、工場や災害現場、避難場所などフィールドワークに最適だ。IP-VPN やインターネット VPN などの通信のほか、同社が提供している「つながるねっとサービス」にも対応している。



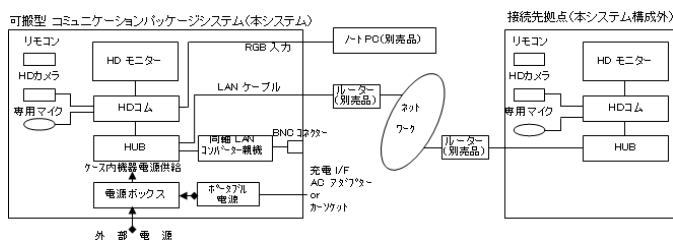
システム運用例（パナソニック システムソリューションズ ジャパン資料）

このシステムには、KX-VC600 本体・HD カメラ・HD モニター（19インチ）・専用マイク・映像/音声入出力・同軸LANコンバーター・バッテリー/AC電源などをハードケース内に搭載し、基本はバッテリーによって駆動するが AC100V でも駆動はできるようになっている。充電は AC100V もしくは DC12V（専用シガーソケット）で行う。ちなみに、1時間のバッテリー駆動には約3.5時間の充電（AC100V 使用時）が必要だ。

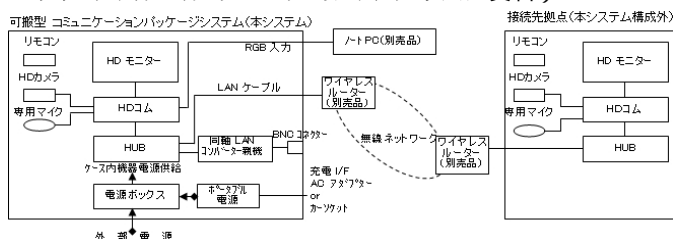
通信については、LAN/同軸ケーブル・WiFi・WiMAX の3つのネットワークに対応。WiFi や WiMAX を使って工場や野外あるいは災害時の避難所などでの使用に耐える。また一方で、先述の同軸 LAN コンバーターにより、同軸ケーブル（5C-2V、アンテナ用ケーブル）で最大2km先までLANを引くことができるため、無線インフラが使用できない場合などでも、同軸ケーブルのみで通信インフラの構築が可能となっている。なお、データ共有には、ノートPCを内蔵のKX-VC600本体とサービスコンセントにそれぞれ挿して使用する。



標準システム構成図：同軸 LAN コンバーターによる接続（パナソニック システムソリューションズ ジャパン資料）



標準システム構成図：ネットワーク回線による接続（パナソニック システムソリューションズ ジャパン資料）



標準システム構成図：Wi-Fi、WiMAX による接続（パナソニック システムソリューションズ ジャパン資料）

可搬型コミュニケーションパッケージシステムの本体重量は、約 40kg。収納時外形寸法は、突起物の除く W625 x D500 x H366(mm)。

クロス・ヘッド、クラウド型 Web 会議サービスを開始

クロス・ヘッド株式会社（東京都港区）は、新たに Web 会議サービス「pigeOne!(ピジョン)」を 11 月 12 日より販売開始した。（2012 年 11 月 12 日）

pigeOne!は、クラウド型サービスのため、専用ソフトウェアのインストールなどの設定が不要で、利用者は自席のパソコンの前から会議に参加することができる。

さまざまな企業規模・環境にあわせたプランを提供しており、拠点数や利用ユーザが少ない場合でも利用しやすいサービス内容となっている。加えて、自社利用時に、自社社員以外の第三者を Web 会議に招待することも可能。

クロス・ヘッドは、ネットワークおよびサーバ基盤に関する設計/構築サービス、IT 教育を中心とした人材育成を主事業としている。ネットワークインフラ周辺に特化した事業展開のなか、現在では、技術者常駐派遣・ハウジング・リモート監視・ディザスタリカバリ・運用コンサルティング・保守サービス等に業容を拡大し、情報システム基盤における技術課

題に対してワンストップでソリューションを提供している。1992 年 9 月設立。東京都港区赤坂に本社。

なお、クロス・ヘッドでは、11 月 12 日より、期間限定スタートアップキャンペーンを実施している。

CIJ、ペーパーレス会議システム「SONOBA COMET」の新バージョン発表、遠隔地会議機能やビューワー機能を追加

株式会社 CIJ（神奈川県横浜市）は、タブレット端末を利用したペーパーレス会議システム「SONOBA COMET(ソノバコメット)」の Ver1.1 を 11 月 12 日より販売開始した。（2012 年 11 月 12 日）

SONOBA COMET は、会議資料を 1 台のタブレット端末に格納し、会議の参加者はタブレット端末で参加する会議を選択するだけで会議を開催できるシステム。また、共有された資料は、会議が終了すれば参加者のタブレット端末より自動的に破棄する仕組みとなっている。パッケージ製品として提供されている。

SONOBA COMET は、3 製品がラインナップされている。(1)サーバ機能と連携するモードで会議資料をより堅牢に保護する「フォーマルモード」。(2)サーバを必要とせずにタブレット端末と無線 LAN 環境さえあれば手軽に会議が開催できる「カジュアルモード」。(3)カジュアルモードよりもさらに購入しやすい価格に設定した「カジュアルモードライト」。

今回、Ver1.1 では、フォーマルモードに「遠隔地会議機能」と、カジュアルモードライトに「カジュアルライトビューワー」を追加した。

遠隔地会議機能を使用することで、WAN でつながれた企業内ネットワーク環境下であれば、異なる拠点間でも会議を開催することが可能になる。この機能は、テレビ会議または電話会議の資料共有として利用できる。なお、テレビ会議システムと電話会議システムは、SONOBA COMET とは別に準備する必要がある。

一方、カジュアルライトビューワーは、カジュアルモードに接続数やファイル数等の機能制限を設けて、より手軽に

SONOBA COMET を利用できる機能。会議の主催は行えないが、会議資料の共有は行える。ただし、このカジュアルライトビューワーは、カジュアルモードライトで開催する会議にのみ参加できる無償のアプリケーション。現在 AppStore への登録準備中で 11 月中に無償ダウンロードを開始する予定としている。(11 月 12 日現在の情報)

ブイキューブ、アジア地域の Web 会議通信環境向上と多言語サポートの強化

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社が提供する Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」のオプション機能として、「Global Link(グローバル リンク)」の提供を 11 月 28 日より開始する。(2012 年 11 月 28 日)

Global Link は、同社が展開しているアジア地域でのサービス拡大の一環として始めるもので、日本・中国・シンガポール・マレーシア・インドネシア・タイ・ベトナムに順次設置が進んでいる V-CUBE ミーティングのデータセンタ間を専用回線で接続し、ユーザの通信環境を強化するサービス。

今回 Global Link を開始した背景。昨今、アジア地域への日本企業の事業進出が進む中で、日本本社との会議やアジア各地の支店や工場との情報共有といったコミュニケーションの機会は増加しているが、一方で、日本とアジア各地域を結ぶインターネット回線は、回線障害による遅延や通信途絶などにより、サービスを快適に利用できない場合があった。加えて、国内拠点で導入しているテレビ会議システムと同等のサービスを海外拠点に設置することは、高価な専用回線の確保といった導入面での課題があった。

同社では、日本と中国の間の通信環境を強化した「China FastLine」も提供している。今後は、Global Link を利用できる地域をさらに拡大して、V-CUBE ミーティングをより快適に利用できる環境を整備していく。

なお、同社の V-CUBE ミーティングは、英語・フランス語・中国語(簡体・繁体)に加え、インドネシア語とタイ語で

の利用も可能になっており、Global Link との拡大とあわせ、アジア地域における同社サービスの利便性がさらに向上するという。

ライフサイズ社、LifeSize UVC Platform の機能強化と関連新製品を発表

LifeSize 社(日本法人:ロジクール株式会社ライフサイズ部門)は、「LifeSize UVC Platform」の機能強化や関連の新製品を発表した。(11 月 13 日)

今回の発表は 3 点ある。(1)マイクロソフト社の仮想化ソリューション「Hyper-V」に対応。仮想化環境の 90%以上は Hyper-V もしくはブイエムウェア社の「VMware」上に構築されているため、今回 Hyper-V にも対応した。

(2)「LifeSize UVC Video Center」の機能強化。多言語におけるクローズドキャプション機能の追加、キャパシティ制限の倍増、また、高等教育における学習管理システムの中で最も利用されているという「Blackboard Learn」にも対応した。なお、Blackboard Learn 対応については、ライフサイズ社より 11 月 7 日に発表されている。

(3)「LifeSize UVC Manager」:「UVC Platform」上で作動するビデオ会議管理アプリケーション。ビデオ会議のモニターや会議の予定設定、端末の一括アップデートなどを単一かつ直感的に操作できるインターフェイスを搭載しているところに特長がある。ビデオネットワーク管理の簡素化による IT 部門の作業負荷軽減を目的に開発された。

なお、LifeSize UVC Manager および LifeSize UVC Video Center 2.1 は、世界中で受注を開始している。

co-meeting のコラボレーションツールが iPad に対応

株式会社 co-meeting(東京都新宿区)は、リアルタイムコラボレーションツール「co-meeting」が、iPad ブラウザに正式に対応したと発表。(11 月 20 日)

co-meeting は、2012 年 4 月の正式リリース以来、国内外で 6000 を越えるグループに利用されているという。これまで、PC

ブラウザ上での利用を前提としていたが、今回、正式に iPad ブラウザに対応した。これにより、外出先や移動中など PC の利用が難しいところでも、co-meeting を利用することが可能になる。

iPad ブラウザ対応の主な特長は以下の通り。

(1)ミーティングリストの開閉:PC よりも小さい iPad の画面サイズにあわせてミーティングリストの開閉が可能。またミーティングの未読バッチも見えるので新着は見逃さない。

(2)縦向き表示にも最適化:iPad を縦向きにした場合は、ノートが右に隠れ、さらに小さな画面でも co-meeting を快適に使える。また、スワイプすると隠れたノートを引き出すことができる。

(3)コントロールの最適化:グループ選択メニューやメッセージの編集ボタンも指で押しやすいサイズに変更している。

(4)簡単に写真をアップロード:iOS6 の標準機能を使ってブラウザからファイル選択でカメラが機能するようになった。iPad で撮った写真を直接 co-meeting に貼付られる。ホワイトボードを使った会議においても、ホワイトボードの写真を co-meeting に取り込める。

今後は、Android タブレットブラウザ、iPad アプリ、スマートフォンブラウザ、iPhone アプリと順次リリースを予定している。

co-meeting は無料で利用できる。有償版は、月額 300 円 / ユーザ、最低価格 1 グループ (5 人) 月額 1,500 円から提供している。

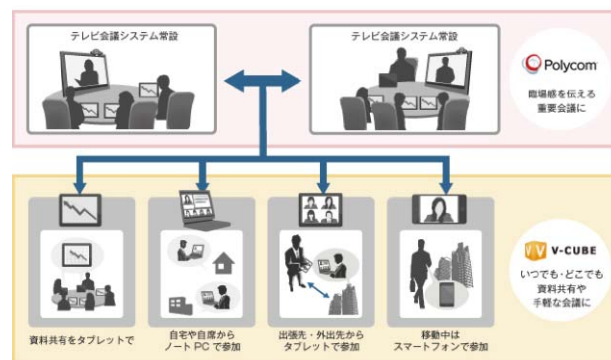
ブイキューブ、ポリコムテレビ会議システムとの接続機能の拡張

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」のオプションとして提供している「テレビ会議接続」を機能拡張し 12 月 5 日より提供開始する。(2012 年 12 月 5 日)

このテレビ会議接続オプションによって、ポリコムの「Polycom HDX シリーズ」と、ブイキューブの Web 会議サー

ビスとの相互接続が可能になる。H.323 と SIP 間の接続が可能になったことと、スマートフォンやタブレットユーザもこのオプションを利用することができるようになった。

なお、Polycom HDX シリーズの動作確認端末についての詳細については同社に確認要。



ブイキューブが提案する Web 会議とテレビ会議の使い分け(ブイキューブ資料)

価格については、月額 15,000 円(税別)。テレビ会議システム 1 接続あたりの料金。追加の初期費用はかからない。ただし、V-CUBE ミーティングの新規ユーザの場合、V-CUBE ミーティングの初期費用および月額費用・オプション費用が別途かかる。トライアル体験も提供している。

Web 会議システムとテレビ会議システムは、ビジネスコミュニケーションの目的に合わせて使い分けられているが、以前よりユーザから導入時に Web 会議とテレビ会議の特長を活かし活用の幅を広げたいという要望があった。しかし一方で、既存のシステムの増設や新規にコミュニケーション環境を構築するコストや導入コストの抑制などの課題があった。今回発表されたテレビ会議接続オプションによって、既にテレビ会議システムを導入している企業は、保有資産をそのまま活用しながら Web 会議を始めることができるメリットがあるとしている。

ブイキューブは、ポリコム社と戦略的提携を結び、テレビ会議システムと Web 会議システムの相互の特長を活かしたコミュニケーション環境の実現に向けて取り組んでいる。今後も機能拡張を奨めていく考えだ。並行して、V-CUBE サービスのラインナップ充実にも力を入れていく。

Arkadin 社、Web 会議のフルリニューアルした次世代バージョンを発表、人間工学に基づきユーザーインターフェイスを再設計

フランスの Arkadin 社(日本法人:アルカディン・ジャパン株式会社)は、資料共有に特化した Web 会議「ArkadinAnywhere(アルカディンエニューウェア)」をフルリニューアルした次世代バージョンを発表。(12月4日)



ArkadinAnywhere ユーザーインターフェイス例(アルカディン・ジャパン資料)

ArkadinAnywhere は、7カ国で提供される SaaS (Software as a Service) で追加プラグインや最新版 Flash などのダウンロードやアップデートが不要で、ブラウザからすぐにアクセスできるオンデマンドサービス。

次世代バージョンは、ユーザが使い心地のよいものにするため、コラボレーションに必要な最小限な機能にしぼり、人間工学の専門家がユーザーインターフェイスの設計を監修した点が特長。また、電話会議「ArkadinAnytime」とシームレスに統合されている。

新しいユーザーインターフェイスは、ワンクリック操作やシンプルさをポイントに、もっともよく使われる機能がすぐ使えるように再構成されている。PC でのワンクリックやタブレットでのワンタップだけで、すぐにアプリケーションや文書の共有が行える合理的で使いやすい Web 会議画面となっているという。

新しいユーザーインターフェイスで提供される主な機能は以下の通り。(1)「クリック共有ボタン」: 軽く直感的に画面やアプリケーション・ホワイトボード・文書を共有できる。(2)「主催者コンソール」: 簡単でありながら、全てを網羅する視覚的にわかりやすいアイコン操作が行える。(3)「クイック招

待」: 会議中に追加参加者を招集するためのもの。(4)「公開/プライベートチャットのポップアップ表示」: 新しいメッセージを通知する。(5)「音声と Web 画面記録」: 会議コンテンツの事後共有を行える。(6)「ワンクリックで電話会議」: コールバック機能で自電話を呼び出し、音声会議室入室を簡単にする。(7)「モバイル端末」: iPad や Android アプリより出先からでも会議に参加できる。

同社によると、今回のフルリニューアルは、ユーザアンケートの結果、Web 会議に求められる特徴のうちもっとも望まれていると判明した「使いやすさ」「パフォーマンス」「信頼性の高さ」に特化していると説明している。

アバイア社、ユニファイドコミュニケーションを仮想化環境で提供するためのコミュニケーション・アーキテクチャを発表

米 Avaya 社(日本法人:日本アバイア株式会社)は、ユニファイドコミュニケーションを仮想化環境で提供するためのコミュニケーション・アーキテクチャ「Avaya Aura Virtualized Environment(Avaya Aura VE)」を発表した。(米国:2012年12月5日、日本:12月13日)

Avaya Aura VE は、同社のコラボレーション・プラットフォーム「Avaya Aura(アバイア・オーラ)」の新たなオプションとして、アバイアの UC およびカスタマーサービス・ソリューションの仮想アーキテクチャ上での柔軟な導入を可能にするもの。Avaya Aura VE は、仮想化技術に関する VMware の「VMware Ready」を取得している。

仮想化に対応する背景。IT 運用に関わる複雑な要素を排除し、機器の数を削減し、コストを抑えるため、仮想化を採用する企業は以前にも増して多くなっているという。

Avaya Aura VE の主な特長は以下の通り。(1)ソフトウェア複製、SIP アクセスの冗長セッション制御、サバイバブル・コアなど Avaya Aura のシステム可用性機能については、Avaya Aura VE でもすべて引き続き利用できる。(2)診断・プロビジョニング・トラフィック管理用ツール「VMware vCenter Server」と連動することで UC を継続的かつ簡単に利用できる。(3)

Avaya Auraと同様に、オープンスタンダードのメリットを引き続き活用できる。(4)仮想化機能で、新たな機器を追加することなく UC 機能やユーザを容易に拡張できる。導入時間は数時間から数分に短縮可能。(5)自社データセンタにVMwareを導入済みの企業は、Avaya Auraを容易に統合できる。(6)コンタクトセンター・アプリケーション「Call Center Elite」でも仮想化機能を利用できる。より迅速に、高いコスト効果でコンタクトセンターのオペレータの補充が可能とともにカスタマーサービスの監督・提供をより効果的に行える。

今回の発表で Avaya Aura の導入にあたっての選択肢をさらに広げることになる。(1)Avaya Aura VE を使用した仮想化環境(仮想サーバ)での導入。(2)専用ハードウェア(専用サーバ)での導入。(3)仮想サーバと専用サーバの組合せ。(4)オールイン型 UC ソリューション「Avaya Collaboration Pods for Avaya Aura VE」。なお、「Avaya Aura Pods」は、2013 年度内のトライアル開始を予定。

なお、Avaya Aura プラットフォームは、以下のコンポーネントから構成されており、このたび仮想化バージョンとして提供される。(1)「Avaya Aura Communication Manager」(2)「Avaya Session Manager」(3)「Avaya Application Enablement Services」(4)「Avaya Aura Presence Services」(5)「Avaya Agile Communications Environment」(6)「Avaya Aura Call Center Elite」。

製品・サービス動向-海外

Vidtel 社、WebRTC に対応したゲートウェイサービスを発表

米 Vidtel 社は、WebRTC に対応したゲートウェイサービス(ベータ版)を発表した。(11 月 28 日)

同社では、これまで、H.323 や SIP 対応テレビ会議システム端末のほか、Skype や Google Talk などの間での相互接続に対応したテレビ会議サービスを提供してきたが、今回あらたに、WebRTC ブラウザにも対応することになった。

これからは、WebRTC 対応のブラウザと H.323 や SIP、

Skype、Google Talk などのテレビ会議が行えることになる。当初は、Chrome バージョン 32 以降で Vidtel 社のテレビ会議サービスに接続できるとしている。

Vidtel 社によると、この対応により、3つの可能性が開けてくると期待している。(1)パソコンに通常インストールされているブラウザから、数百万台にといわれる国際標準対応のテレビ会議システムとの通話が簡単におこなえる。(2)これまで通信プロトコルの違う(video islands)通信端末同士がその壁を越えて端末に関係なくテレビ会議が行える環境が整う。(3)既存のテレビ会議ユーザにとって、WebRTC からもテレビ会議に参加できるようになることでコストパフォーマンスや ROI の向上が期待できる。

ベータ版サービスは、Vidtel 社のチャネルパートナー経由で月額利用料という形で提供。本格サービス開始は今年中とのこと。

Global Conferencing Solutions 社、クラウド型テレビ会議サービスにおいて Microsoft 社「Lync」に対応

米 Global Conferencing Solutions 社(GCS)は、同社が提供するクラウド型テレビ会議サービスにおいて、マイクロソフト社の「Lync」に対応した。(11 月 14 日)

これにより、Lync や iOS デバイスと、標準的なテレビ会議システムや Windows PC や Mac などと多地点での 720p テレビ会議が行えるようになった。

同社のクラウド型テレビ会議サービスは、今は Avaya 社と合併した RADVISION 社のテレビ会議技術を採用している。このシステムだと、標準的なテレビ会議システムのほか、Windows PC・Mac・3G/4G 携帯・Lync・電話・イマーシブプレゼンスシステムをユニファイドコミュニケーション環境で統合することができる。

(次のページへ続く)

Avistar 社、サービス事業者等向けのクラウドサービスソリューションを発表

米 Avistar Communications 社は、サービス事業者等向けのクラウドサービスソリューション「Avistar ConnectWare Conferencing」を発表した。(11月13日)

Avistar ConnectWare Conferencing は、ConnectWare ソリューションの第一弾で、同社の「Avistar C3 platform」上で稼働するシステム。ビジネスアプリケーション提供事業者、サービス事業者、コミュニケーションソリューション提供事業者向けに提供することを想定している。これらの事業者が、多地点に対応した音声・ビデオ会議サービスをクラウド型で提供できるようになる。

Videoxio 社、クラウド型テレビ会議サービスで、サウジアラビアのプリテッシュテレコム Al Saudia 社と提携

ノルウェーの Videoxio 社は、クラウド型テレビ会議サービスでプリテッシュテレコム Al Saudia 社と提携したと発表。(10月8日)

Videoxio 社は、クラウド型テレビ会議サービスプロバイダで、今回、サウジアラビアでテレビ会議システム関連を含む IT ソリューションを提供しているプリテッシュテレコム Al Saudia 社と提携。プリテッシュテレコム Al Saudia 社は、Videoxio 社のプラットフォームを採用してクラウド型テレビ会議サービスを提供する。HD テレビ会議システムのほか、Windows PC や Mac・iPad などにも利用できるサービス。

プリテッシュテレコム Al Saudia 社は、プリテッシュテレコムと HRH Prince Abdulaziz bin Sattam bin Abdulaziz と BT Global Services 社との合弁企業。サウジアラビアで 20 年以上ビジネスを展開しており、社員数は 200 名近い。

ロジテック社ライフサイズ、「LifeSize Unity シリーズ」に新製品を追加

ロジテック社ライフサイズ(日本法人:ロジクール株式会社ライフサイズ部門)は、オールインワンビデオ会議ソリューション「LifeSize Unity シリーズ」の新製品を発表した。(11月14日)



LifeSize Unity 2000(ライフサイズ社 Media Kit 資料)



LifeSize Unity 1000(ライフサイズ社 Media Kit 資料)

同社では、すでに「LifeSize Unity 50」と「LifeSize Unity 500」を販売しているが、今回あらたに「LifeSize Unity 1000」と「LifeSize Unity 2000」をシリーズに追加した。これらの Unity シリーズは、「LifeSize Phone(第二世代)」を同梱。ビデオ会議、音声コール、プレゼンテーションなどの各操作に直感的な操作を可能とする。

ビデオ会議システム導入時の設置は作業の難易度が高かったり手間がかかることがあり、そういった背景から、コーデック・カメラ・ディスプレイ・電話・音声周辺機器を統合したオー

ルインワンソリューションへの要望が高まっていた。この Unity シリーズのビデオ会議システムは、IT スキルがなくても簡単に設置できる点が特長という。

LifeSize Unity 1000 は、55 インチのシングル液晶モニターを搭載。1080p HD の解像度と 8 拠点多地点接続に対応で大規模会議室に最適。コーデックは、「LifeSize Room 220」か「LifeSize Express 220」を選択。

LifeSize Unity 2000 は、55 インチの液晶モニターを 2 台搭載。1080p HD の解像度と 8 拠点多地点接続、データ共有に対応。コーデックは、LifeSize Room 220 か LifeSize Express 220 を選択。

参考価格(北米発表):LifeSize Unity 1000 が\$30,999 MSRP(希望小売価格)～。一方、LifeSize Unity 2000 が\$59,999 MSRP(希望小売価格)～。(CNAレポート・ジャパン補足:日本での発表時期および価格は未確認。なお、Unity 500 および Unity 50 については日本で販売されている。)

Aver Information 社と Blue Jeans Network 社、両社の製品とサービスを組み合わせたパッケージ提供

米 Aver Information 社(本社台湾)は、クラウド型テレビ会議サービスを提供する Blue Jeans Network 社と提携したと発表。(11 月 27 日)

この提携により、Aver Information 社のテレビ会議システム端末と、Blue Jeans Network 社の 30 日間限定のサービス利用ライセンスを組み合わせたパッケージを提供する。価格(北米発表)は、2,499 ドル MSRP(希望小売価格)。

ビジネス動向-海外

LG グループ LG U+社、テレビ電話サービスに SPIRIT DSP 社のコーデックを採用

ロシアの SPIRIT DSP 社の発表によると、韓国 LG グループ系サービスプロバイダである LG U+社が、SPIRIT DSP 社が開発する「TeamSpirit Voice & Video Engine Mobile」を採

用した。(11 月 7 日)

LG U+社は、LG Telecom 社、LG Dacom 社、LG Powercom 社が合併して出来た会社(2010 年 1 月)。SPIRIT DSP 社のコーデックを採用することで、サムスン電子の「Galaxy Player」に対応した新しいモバイル向けテレビ電話サービスを展開する。LG U+社サービスの加入者の間では、Galaxy Player が人気という。

今回テレビ電話サービスを展開する背景としては、LG U+社があらたな顧客の獲得を目指すことや、Skype、Google の無料のソフトに対抗する目的がある。

ユーザは、Galaxy Player 間では無料で通話が行えるが、携帯電話や固定電話への通話は有料とする。また、Galaxy Player 間もしくは携帯電話へのテレビ電話については、TeamSpirit Voice & Video Engine Mobile コーデックを利用するとしている。

これまでに SPIRIT DSP 社のコーデックを採用した主な韓国企業は、Korea Telecom 社、KT Tech 社、Acromate 社、iRiver 社、サムソン電子、LG-Dacom 社、Seoul Comtech 社、現代自動車、LIG Nex1 社、Core Logic 社などがあるという。

Arkadin 社、グローバル展開の拡大

フランスの Arkadin 社(日本法人:アルカディン・ジャパン株式会社)は、グローバル展開の拡大を発表した。(11 月 8 日)

同社では今年 2012 年、メキシコ・ポーランド・チェコ共和国・台湾に事業拠点を開設。加えて、事業において力強い成長記録を伸ばしていることと、新興市場(emerging market)における遠隔会議ソリューションが有望視されていることから、2013 年にはあらたな事業拠点開設をヨーロッパおよびラテンアメリカに予定しているという。

今後の事業展開において柱となる戦略は3つある。(1)クラウドコラボレーションプラットフォームの展開。(2)戦略的パートナーシップの推進。マイクロソフト社、アドビ システムズ社、シスコ社/WebEx、Vidyo 社、NTT コミュニケーションズ、中華電信、チャイナユニコムなどの提携。(3)ローカルサービス:

グローバル企業ながらも個々のローカルの顧客を重視。社員の7割は顧客対応業務に就いている。

Arkadin 社、テレビ会議サービスを専門とする Novasight 社を買収完了、テレビ会議サービス事業を強化

フランスの Arkadin 社(日本法人:アルカディン・ジャパン株式会社)は、同じくフランスのテレビ会議サービスを専門とする Novasight 社を買収完了したと発表。(11月27日)

Novasight 社は、2001年に設立され Philippe Decaesteke 氏のリーダーシップによって事業展開してきた。今回の Arkadin 社による買収によって、Novasight 社は、Arkadin 社のグローバルネットワークを活用できるとともに、一方で Arkadin 社の 25,000もの B2B ユーザは、Novasight 社のテレビ会議における専門性 (Cisco/Tandberg・Polycom・Radvision) によるサービスを受けることができるようになる。Arkadin 社にとっては、VaaS 型サービスからマネージドサービスまでのラインナップを強化する狙いがある。

Arkadin 社は、現在 31 カ国に社員数は 1,000 名を越す。2012年の売上は、1億8500万 EURO。昨年度に比べ、45%の売上増を記録。2013年にはビデオ会議サービスの売上を倍にする計画だ。2001年に設立されて以来、現在世界第3位の専門コラボレーションサービス事業者と評価されている。

なお、今回の買収は、Arkadin 社の主要株主である AXA Private Equity 社の支援により実現した。買収金額は公開されていない。

Desire2Learn 社の eLearning ソリューション、Cisco WebEx などを統合

クラウド型 eLearning ソリューションを提供する Desire2Learn 社は、同社の LMS(ラーニングマネジメントプラットフォーム)に、コラボレーション、テキスト to スピーチ、キャプション、学習者情報システムの各機能を統合した。(11月6日)

今回の機能統合は、学習者にとって利便性の高いリッチな学習環境を提供することが狙い。コラボレーション機能においては、シスコシステムズ社の Web 会議システム「Cisco WebEx」を採用。教師と学習者との間のコミュニケーションを活性化する。また、テキスト to スピーチ機能においてはクラウド型テキスト to スピーチ (TTS) 技術を提供する READSPEAKER 社。テキストコンテンツを聞くことができるようにする。さらに、キャプションについては AST 社。聴覚障がい者の学習をサポートするところに特徴がある。最後に、学習者情報システムについては ELLUCIAN 社を採用。

Desire2Learn 社のソリューションは、700 社に採用され、800 万人以上に利用されている。拠点は米国、カナダ、ヨーロッパ、オーストラリア、ブラジル、シンガポールにある。

OVCC 団体、OVCC 規格に対応したエンタープライズ向けサービスの商用サービスを開始

オープン・ビジュアル・コミュニケーションズ・コンソーシアム(The Open Visual Communications Consortium、OVCC)は、OVCC 規格(OVCC blueprint)に対応したエンタープライズ向けサービスの商用サービスを開始したと発表。(12月4日)

OVCC は、サービス提供事業者、通信事業者、通信端末メーカーなどから構成され、ネットワークやメーカープラットフォームやデバイスの違いを超えてオープンな標準規格のビデオコミュニケーションを実現する目的のもと非営利任意団体として設立(2011年10月)された組織。

OVCC 規格に対応した商用サービスは、OVCC 会員である、AT&T 社、BCS Global 社、Airtel Business 社、BT 社、Glowpoint 社、Orange Business Services 社からまず第一弾としてそれぞれの会社のブランドで提供される。

加えて、OVCC 会員の中で AT&T 社、Airtel Business 社、Masergy 社、Orange Business Services 社は、OVCC 規格に対応した相互接続ネットワーク方式(interconnect network)を開発した。

これらの実現により、ユーザは、企業のファイアウォールや

独自プラットフォームの制限を乗り越えて、他の人達とコラボレーションを効率よく行えるようになるという。

クラウド型テレビ会議サービスの Vidtel 社とテレビ会議メーカーの VTEL 社提携

クラウド型テレビ会議サービスを提供する米 Vidtel 社は、米テレビ会議システムメーカー VTEL 社と提携したと発表。(12月11日)

Vidtel 社のテレビ会議サービスでは、SIP・H.323 端末、Skype、GoogleTalk、WebRTC(近日中)の端末間でテレビ会議を行えるサービス。今回の提携で、VTEL 社テレビ会議システムユーザは Vidtel 社のサービスを通してこれらの端末とテレビ会議が行えるようになった。サービス料金は、コストパフォーマンスが高いと説明する。

VTEL 社のテレビ会議システムは、Windows 7 プラットフォーム上で動作するシステムで、テレビ会議はもとより、web サイトの表示、DVD の再生、PC ソフトウェアの使用(パワーポイントやHDTV視聴など)などが行える。北米での価格は、\$5,000 を切る。

VTEL 社(VTEL Products Corporation)は、設立 27 周年を迎える。1980 年代後半に業界初の PC ベースのテレビ会議システムを開発して以来、教育や医療、法律、一般企業と幅広く導入実績がある。

任天堂のテレビ電話 Wii U チャット、Vidyo 社の技術を採用

米 Vidyo 社は、任天堂株式会社(京都市南区)が販売する新型ゲーム機「Wii U」のテレビ電話機能「Wii U chat」に、米 Vidyo 社のテレビ会議システム技術を採用したと発表。(11月19日)

任天堂は、Vidyo 社のソフトウェアプラットフォームが、品質とパフォーマンスを兼ね備えており、任天堂のゲーム開発に容易に統合できる点、さらには、コンシューマにとっても使いやすい点、また、ネットワークの変動に対して柔軟に対応できる(H.264SVC)点などを特長として挙げる。

Avaya 社のユニファイドコミュニケーション、2012 年 6 月に統合合併した RADVISION 製品群と統合

米 Avaya 社(米国、日本法人:日本アバイア株式会社)は、2012 年 6 月に買収合併した RADVISION 社(イスラエル、日本法人:RADVISION Japan 株式会社)のビデオ会議システム製品と統合したと発表。(2012 年 12 月 12 日)

今回の発表により、Avaya 社は、RADVISION のビデオ会議製品群と組合せ、エンタープライズ・SME・サービス プロバイダ向けの新しいビデオコラボレーションソリューションを提供開始する。

製品群は以下の通り。(1)「Avaya Aura Conferencing with Avaya Flare Experience 1.1」:7,500 同時接続セッションと 75,000 ユーザに対応。また H.264SVC により、25%の帯域低減を実現。

(2)「Scopia XT5000 ルームシステム」:4 もしくは 9 ポート内蔵 MCU 搭載。「Avaya IP Office」と SIP によるコミュニケーション環境を統合。「Scopia Desktop」「Scopia Mobile」を SME 向けにパッケージしたオプションもあり。

(3)「Scopia Mobile」:モバイル向けソリューション。Apple 社製 iPhone や iPad に加え Android 端末にも対応。

(4)「Scopia XT Executive 240 Desktop」:デスクトップビデオ会議システム。オプションで内蔵 MCU 提供。H.264SVC と H.264HP に対応。

(5)「Scopia TIP Gateway」:3 スクリーン(音声・ビデオ・データ共有)シスコテレプレゼンス環境に対応。LifeSize、Polycom、Tandberg 各製品に対応。

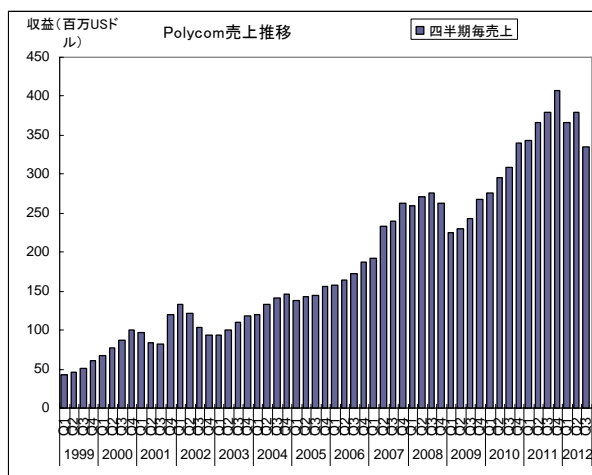
(6)「Scopia Management System」:40 万ユーザまで管理できるブラウザ対応のビデオ会議運用管理システム。Windows PC、Mac、スマートフォン、タブレットに対応。また GoogleMaps を搭載。

一方、連携する他社製ユニファイドコミュニケーションは、以下の通り。(1) Microsoft 社:「Lync/OCS」「Internet Explorer」「Microsoft Dynamics(CRM)」。(2) IBM 社:「IBM Sametime」。(3) Salesforce.com 社:CRM ソリューション。

決算状況

*Nasdaq 上場企業の決算情報

ポリコム社 (2012 年第 3 四半期)



米ポリコム社は、2012 年第 3 四半期 (7 月-9 月期) の決算状況を発表。売上高は、3 億 3,500 万ドルで前年同期の 3 億 3,500 万ドルと比べ 6% の減少となった。ただし、非継続事業として区分された企業向けワイヤレスソリューション (Enterprise Wireless Solutions) を反映し修正されている。

地域別の売上高比率については、南北アメリカが全体の 51%、欧州・中東・アフリカ (EMEA) が 23%、アジア太平洋が 26%。対前年比では、南北アメリカは 5%、EMEA は 8%、アジア太平洋は 4% とそれぞれ減少となった。

一方、製品別売上では、「UC グループシステム」が 2 億 2580 万ドル。「UC パーソナルデバイス」が 4,570 万ドル。「UC プラットフォーム」が 6,390 万ドル。対前年比では、UC グループシステムが 8%、UC パーソナルデバイスが 3% とそれぞれ減少したが、一方 UC プラットフォームは 4% 増となった。

ポリコム社によると、第 3 四半期のビジネスハイライトとしては、以下の通り。(1) Forrester Research 社、Gartner 社、IDC 社の各調査会社より、ビデオ会議メーカーとして高い評価を受けた。(2) モバイル端末まで含めた 10,000 台までサポートする「RealPresence Resource Manager」の発表。(3)

高度なカスタマイズが可能な「オープン APIs」の発表。(4) IBM Research 社とクラウド向けの協同研究開発。(5) 「Polycom RealPresence ビデオソリューション」の導入を円滑にするコンサルティングなどからなる「Polycom Adoption Services」の発表。

導入・利用動向

広島銀行、本部および営業店 177 拠点にビデオ会議システム導入

株式会社広島銀行 (広島市中区) は、本部および営業店 177 拠点にビデオ会議システムを導入すると発表。(2012 年 12 月 13 日)

本店と営業店を端末と大型モニターを利用して双方向に映像と音声で接続する。稼働開始は 2013 年 3 月を予定。

ビデオ会議システムを活用することで、わかりやすい情報の伝達、会議・研修への参加によって、移動時間の削減や意思決定の迅速化が図れると見込む。これにより、営業推進時間を増加し、顧客とのフェイス to フェイスでの接点増大に取り組んでいく。

また、相続で来店した顧客に対して、ビデオ会議システムを活用して本部の専門部署につなぐことで、多様な相談に的確に対応できる。

万が一の大地震などの広域災害発生時には、銀行内の LAN ネットワークで接続できるため、拠点間で迅速かつ的確な情報の伝達が可能になる。これにより、顧客への要望に迅速に対応できるとともに、地域社会の復興に向けた支援に役立つことが可能になると、ビデオ会議導入による以上のような効果を期待している。

広島銀行では、今後とも IT 技術を活用してサービスの充実と顧客満足や利便性の向上に努めていくとしている。

広島銀行 <http://www.hirogin.co.jp/>

セミナー・展示会情報

< 国内 >

【東京・大阪同時開催】『実践！スマートデバイスで「いつでも、どこでも」ビデオ会議』セミナー ~ 出張先、在宅勤務、取引先での打合せ・・・活用シーンがどんどん広がる ~

日時:1月17日(木)14:30~17:15(受付開始14:00)

会場:パナソニック インフォメーションシステムズ東京オフィス
シスコシステムズ 大阪オフィス

主催:パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

共催:シスコシステムズ合同会社

詳細・申込:<https://event.is-c.panasonic.co.jp/public/seminar/view/281>

ビデオ会議 徹底活用セミナー

マルチデバイス環境で変わるビデオ会議の活用法

日時:2月6日(水)14:30~16:30(受付:14:00)

会場:沖電気工業 虎ノ門ショールーム(東京都港区)

主催:沖電気工業株式会社

詳細・申込:<http://www.oki.com/jp/telecom/event/vn.html>

Cisco Connect Japan 2013

日時:2月13日(水)~14日(木)

会場:東京ミッドタウンホール&カンファレンス

およびザ・リッツ・カールトン東京

主催:シスコシステムズ合同会社

詳細・申込:<http://www.cmarket.jp/ciscoconnect/>

*UC、遠隔会議関係のセッションが多数あり。

定期レポート 電子ブック版

CNA レポート・ジャパンでは、毎月2回業界ニュース(定期レポート)を1999年から発行しておりますが、この度、カタログスクウェアさんに、2003年から2011年までの定期レポートを1年毎に合冊していただきました。2012年は1号毎です。

また、今年8月4日には、これまでのPCからの閲覧に加えて、スマートフォンやタブレットからも閲覧できるようになりました。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2011年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2012年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/2012/

定期レポート(PDFファイル)は年間23号発行されておりますが、電子ブックによって1年分を一度にダウンロードできこれまでのように1号毎にPDFをダウンロードする必要はありません。もちろん今までのPDFもアーカイブしています。

電子ブック版は、本のページをめくるようにととも読みやすくなりましたし、また1年単位ですが全文検索もしやすく

なりました。定期レポートの読者の皆さんにとっても良いのではないかと思います。

ちなみにこの定期レポートは私にとっては、遠隔会議のリサーチの一環としてまとめているものでもありますし、また、私自身の活動を広げていくための機会への窓口にもなっています。

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお問い合わせいたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

Twitter、Facebook、dtc-forum

ツイッターとフェイスブック、dtc-forumを通して遠隔会議関連の情報を配信しています。よろしければご覧ください。

> dtc-forum メールングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

> Twitter

—日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>

—英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

> Facebook

—「テレビ会議・Web会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

—「橋本啓介」個人のページ

<https://www.facebook.com/keishashimoto>

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

定期レポートは創刊1999年12月から2002年12月まではテキストのみによるニュース配信でしたが、2003年1月15日号よりPDFファイル版に変更、以来PDFファイルによりこれまで発行してきました。お陰様で、2013年1月15日号で10年経ったこととなります。

今でも2003年1月15日号を発行した時を覚えていますし、その時から10年経ったとはいえ年月のはやさに驚いているところです。個人事業としては大変ですが、これからも一歩一歩行きたいと思っています。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

橋本啓介